

# 日本教育学会第73回大会のご案内

2014年3月

日本教育学会会員各位

日本教育学会第73回大会実行委員会  
九州地区準備委員会委員長 新谷 恭明  
副委員長 元兼 正浩  
大会実行委員会委員長 八尾坂 修  
副委員長 野々村淑子

日本教育学会第73回大会を、2014年8月22、23、24日の3日間に亘って九州大学貝塚文系キャンパス(箱崎)において開催いたします。前開催校・一橋大学による大会運営のノウハウを参考にさせていただきながら、学内外関係者一同、精一杯努める所存でございますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

第73回大会は、研究発表の中核となる「自由研究発表」、「ラウンドテーブル」、「シンポジウム」、「特別課題研究」を中心にプログラムを組み、その間に、総会、懇親会、学会理事会の開催を予定しております。「自由研究発表」は、第68回大会以来採用されている「一般研究発表」と「テーマ型研究発表」に区分して、同時並行で開催したいと考えています。また、前大会と同様に「ラウンドテーブル」を22日(金)の夕方に開催する予定です。「特別課題研究」は24日(日)の午後に設定しました。

大会校である九州大学が主催する「シンポジウム」は、23日(土)の午後と24日(日)の午後に設定し、一般公開して地域の方々にも参会していただく予定です。

第1報でもご案内いたしましたように、今回の大会では、“**i**を探そう!”をキャッチフレーズに、九州 island が抱えるリソースを掘り起こし、かつ課題を見つめ直す契機とするべく、九州教育学会を核とした九州ネットワークの後援をうけ体制を整えつつあります。そして、私たち九州大学の教育学部門、専攻が人間環境学研究院・学府という文理融合型学際大学院に所属しているという特色と強みを活かし、福祉や、都市やコミュニティ等の問題を含ままちづくり論など、周縁でありながらも現在それなくしては教育を語ることでできない領域の研究をもまきこみ (involvement, integration)、新しい教育学 image を探っていく、そんな大会にしていきたいと考えています。会員の皆さまにも、もっと多くの“**i**”を見つけていただきたいと考えております。シンポジウムにおける“**i**”探しも、引続き奮闘中です。

シンポジウムⅠは、「東アジアをつなぐ教育の可能性を探る — 貧困・格差・ナショナリズムを超えて —」をテーマに、グローバル化の中で東アジアが抱える深刻な問題を見据え、教育、そして教育学がどのようにそれを引き受けていくことができるのか、という問題を考えます。ひとまずは中国、韓国、そして日本の三国間において、知の共有とネットワーク化はいかにして可能でしょうか。「脱欧(米)入亜」をキーワードに、その可能性を探ります。

シンポジウムⅡは、「3.11以後の世界に教育学は何を提起するのか?」をテーマとします。現在、さまざまな学問領域において3.11の経験、またこの災害が露呈した課題、そしてそれが生み出した新たな深刻な状況についての応答がなされています。近代、成長、発展、中央と周辺といった社会構造の抱える問題を看過することはできません。また、未だ決して終わってはいないこの未曾有の経験を、私たちはいかに聴き、そして次世代に語るができるのでしょうか。

双方のシンポジウムにおいて問うものは、深刻で、容易に解決しうるような問題ではありません。しかし、ともすれば抱く果てしない絶望の果てに、希望を見出すことができるのかどうか、その可能性に向けて、第一線の研究者による対話に耳を傾け、探究していきたいと考えています。なお、これら2つのシンポジウムは、九州教育学会(平成26年度は長崎大学において開催、「子どもの貧困」をテーマに総合部会:公開シンポジウムを継続的に計画中)との共催にて行います。

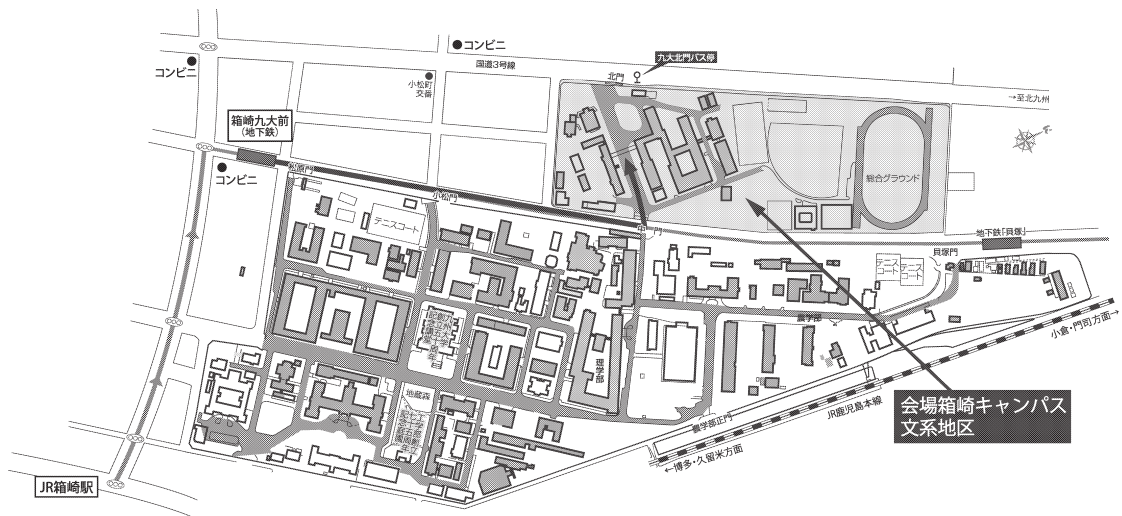
## 開催要項

### 1. 期日

2014年8月22日（金）・23日（土）・24日（日）

### 2. 開催会場

九州大学貝塚文系地区キャンパス（〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1）



交通アクセス JR 鹿児島本線箱崎駅下車 徒歩20分  
 市営地下鉄貝塚線 箱崎九大前下車 徒歩10分  
 詳細は九州大学 HP アクセスマップをご覧ください  
<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/index.php>

### 3. 大会日程

22日(金)	13:30		16:30 17:00		19:00	
	理事会		ラウンドテーブル			
23日(土)	9:30	12:30 13:30	14:45 15:00	18:00 18:30 20:30		
	一般研究発表/テーマ型研究発表	昼食	総会	シンポジウム I		懇親会
24日(日)	9:30	12:30 13:30	16:30			
	一般研究発表/テーマ型研究発表	昼食	シンポジウム II/特別課題研究			

### 4. 大会までのおもなスケジュール

大会ウェブサイト開設 3月中旬（予定）  
 一般研究発表・テーマ型研究発表の申込締切 5月14日（水）（Web 登録）  
 ラウンドテーブルの申込締切 5月14日（水）（Web 登録）  
 『発表要旨収録』掲載原稿の提出締切 6月25日（水）（Web 登録）

大会プログラム送付

7月中旬 発送予定

\*締切日経過後の申し込みと原稿提出は一切受け付けられません。

## 5. 大会参会費・懇親会費 ※懇親会については別記参照

大会参加費	正会員	5,000円	事前振込	4,500円
	臨時会員	5,000円		
	学生会員	3,000円	事前振込	2,500円
	懇親会費正会員	4,500円	事前振込	4,000円
	臨時会員	4,500円		
	学生会員	3,000円	事前振込	2,500円

ラウンドテーブルのみの参加費 1,500円

\*事前振込金額の適用は、Web登録で事前申込登録後、下記の郵便振込口座に6月末日までにお支払いいただいた場合に限らせていただきます。

\*学生会員の方は、学生であることを証明するものをお持ちください。

ゆうちょ銀行 箱崎松原支店 当座預金 口座番号 0164658

日本教育学会第73回大会実行委員会

## 6. 自由研究発表及びテーマ型研究発表

### (1) 分科会種別と趣旨

会員による研究発表の場として、前回大会同様、「A一般研究発表」と「Bテーマ型研究発表」を設定します。いずれについても、研究発表を希望する会員は自由に応募できます。

「A一般研究発表」では、従来の「自由研究」を基本的に踏襲し、研究領域別の分科会を編成します。「Bテーマ型研究発表」では、さまざまな研究課題について焦点化された特定のテーマを設定し、分科会を編成します。

### (2) 開催予定分科会

現在のところ、下記の分科会の開催を予定しています。ただし、研究発表の応募状況によっては、分科会の名称変更や再編を行うことがありますので、あらかじめご承知おきください。

#### 【一般研究発表】

- A-1 教育理論・思想・哲学
- A-2 教育史
- A-3 学校制度・経営
- A-4 教育行財政・教育法
- A-5 比較・国際教育
- A-6 教育方法・教育課程（生徒指導・生活指導を含む）
- A-7 教科教育
- A-8 発達と教育
- A-9 技術・職業教育
- A-10 就学前教育・保育
- A-11 初等・中等教育
- A-12 中等後教育・高等教育
- A-13 教師教育
- A-14 社会教育・生涯学習（高齢者教育を含む）
- A-15 教育心理学（カウンセリング・相談を含む）
- A-16 特別支援教育
- A-17 図書館・教育情報学

### 【テーマ型研究発表】

- B-1 市民性教育の課題
- B-2 学校のリアリティと教育改革の課題
- B-3 子どもの貧困と教育問題
- B-4 高等教育のガバナンスと質保証
- B-5 世界の教育改革動向
- B-6 若者の移行過程変容と学校
- B-7 差別問題と教育
- B-8 ジェンダーと教育
- B-9 道徳教育の改革動向
- B-10 教師教育改革の動向
- B-11 子育て支援と教育
- B-12 Educational Issues from Global Perspectives:  
Critical Perspectives on Education for “Globalized Talent” (in Asia) \* English Session
- B-13 教育委員会制度の検討
- B-14 教育の国際化と留学生
- B-15 戦後初期の教職員組合
- B-16 戦後日本の教育財政構造 — 歴史・比較・理論 —
- B-17 教育研究における諸ディシプリンの分化と統合
- \* B-15、16、17は公募により新設されたテーマ

### (3) 発表申込

研究発表をご希望の方は、5月14日（水）までに下記の大会ウェブサイトの申し込みフォームに必要事項をすべて書きこんでください。申し込みはすべてウェブサイト上で行います。郵送、ファクシミリ、メールなどによる申し込みには応じられません。申し込み者には自動的に受領確認メールが送信されます。もし届かない場合は、下記メールアドレスにて大会準備委員会（実行小委員会）に御連絡ください。

発表希望分科会は、「A一般研究発表」「Bテーマ型研究発表」あわせて、第3希望までお選びください。応募状況によっては、分科会の再編、名称変更を行います。また、ご発表のテーマや応募状況等によっては、「A一般研究発表」と「Bテーマ型研究発表」の間で移動をお願いすることがあります。発表日時は、大会実行委員会で決定させていただきます。

申し込み先ウェブサイト：<http://www.jera73.jp>

メールアドレス：taikai@jera73.jp

### (4) 発表資格

発表は、①本学会員で5月14日以前に2013年度までの会費を全納した会員、または②5月14日までに2014年度の入会申し込み手続きをとり2014年度会費を前納した方、のいずれかに限ります。

### (5) 一般研究発表及びテーマ型研究発表の時間配分

個人研究発表25分 + 質疑5分

共同研究発表50分 + 質疑10分

\* 原則として、発表終了後に総括討論を行います。

\* 共同研究であっても口頭発表者が1名の場合の時間配分は、個人研究と同じです。

### (6) 「発表要旨集録」原稿の提出

発表申込をいただいた方は、大会ウェブサイトに『発表要旨集録』に掲載する発表要旨に関する原稿執筆要項を参考に、Web登録にて原稿（PDFファイル）をご提出ください。原稿提出締切は、6月25日（水）必着となっております。「発表要旨集録」に掲載される内容は、国立情報学研究所電子図書館

論文情報ナビゲータ (CiNii) にて公開されます。

## 7. ラウンドテーブル

会員の創意で自主的に企画される研究交流・意見交換の機会です。多くの会員の皆様の応募をお待ちしております。

### (1) 申込方法

開催希望の方は、下記の大会ウェブサイトの申し込みフォームに必要事項をすべて書きこんでください。郵送、ファクシミリ、メールなどによる申し込みには応じられません。申し込み者には自動的に受領確認メールが送信されます。もし届かない場合は、下記メールアドレスにて大会準備委員会（実行小委員会）にご連絡ください。

申し込み先ウェブサイト：<http://www.jera73.jp>

メールアドレス：taikai@jera73.jp

### (2) 企画者・提案者等の資格

企画者・提案者等は、①本学会員で5月14日以前に2013年度までの会費を全納した会員、または②5月14日までに2014年度の入会申し込み手続きをとり2014年度会費を前納した方、のいずれかに限ります。

### (3) 『発表要旨集録』原稿の提出

発表申込をいただいた方は、大会ウェブサイトに『発表要旨集録』に掲載する発表要旨に関する原稿執筆要項を参考に、Web登録にて原稿（PDFファイル）をご提出ください。原稿提出締切は、6月25日（水）必着となっております。「発表要旨集録」に掲載される内容は、国立情報学研究所電子図書館論文情報ナビゲータ（CiNii）にて公開されます。

## 8. 特別課題研究

### (1) 大震災と教育（担当：久富善之会員）

東日本大震災の大津波被災とその後を子ども・教師・学校はどう生きているか

《趣旨》

東日本大震災とりわけ大津波被災は、日本教育史上（戦災を除けば）最大の人的・物的な被害をもたらしました。それは被災地・被災者にいまも深い傷と苦難を負わせています。課題研究「大震災と教育」（代表：藤田英典）は9サブグループを構成しそれぞれ調査・研究してきましたが、今回は「大津波被災とその後」を当事者である子ども・教師・学校がどう生きているかというテーマに絞り、以下2点で議論・探究を深めたいと思います。

(1) 地震・大津波は、地域・学校をどのように襲ったか。それに子ども・教師・学校・地域はどのように直面し対応しどう向き合ったのか。これら基本的事実をいま改めて整理し、その事実のなかにある困難と努力、防災上の教訓などを明らかにする。

(2) 被災後の3年余は決して順調な復旧の歩みではなく、そこにも困難と苦悩が重なり、それに向きあう取り組みが重ねられている。そこには「受傷がどう語られ／語られないか」「どう受け止められ〈回復〉への途をたどるか」といった点を始め、被災地学校における教育と支援の課題がある。

それら課題と取り組みの特有の性格を明らかにする。

被災時とそれ以降とではことからはやや異なりますが、後者においても前者の事実の把握と捉え直しが常に問われるので、これら2点の事実の課題の重なるのなかに、被災地に生きる子ども・教師・学校の姿と、そこに関わる私たちの立場を考えます。

### (2) 戦後教育学の遺産の記録 ― 担い手への聞き書きを中心に（担当：木村元理事）

《趣旨》



本研究は、戦後の教育学研究の場が成立し、そこで学問形成をしたいわゆる第二世代が蓄積した学問の社会史的なドキュメントの収集にあたらうとするものである。戦後教育学を構築し担ってきた先達の方々から教育学が置かれた独自の学問状況を含めた証言を得ることで、戦後教育学がどのように成立・展開したのか、その検証の資料の収集にあたってきた。

本年度は、昨年の東京大学名誉教授大田堯氏、國學院大學名誉教授竹内常一氏に続き、広島大学名誉教授の新堀通也氏と名古屋大学名誉教授佐々木亨氏からの聞き書きを踏まえた報告を予定している。

### (3) スクール・セクハラ問題の総合的研究 (担当：山口和孝理事)

未定

## 9. 公開シンポジウム

### (1) 公開シンポジウム I

テーマ：東アジアをつなぐ教育の可能性を探る — 貧困・格差・ナショナリズムを越えて —

本シンポジウムは、教育ならびに教育学がこれからのグローバルな社会の構築に具体的にどのようにかかわっていくことができるのか、その可能性を探るものです。そして、それは同時にこれまでの教育と教育学のあり方を問い直すものでもあります。

今回のシンポジウムでは、日本のなかで朝鮮半島やアジア大陸に地理的に近く、歴史的にもつながりが深い「アジアの玄関口」として知られる、九州の福岡という地で、東アジアをつなぐ教育の可能性を考えてみたいと考えています。

現在、国家関係の文脈では、日本はその隣国である中華人民共和国（中国）と大韓民国（韓国）との間に、歴史認識や領土の問題で国際的な軋轢を抱えています。それに対して、政治的にはしばしば「未来志向」という言説が使用されます。しかし、そういった内実を覆い隠す言い方にとどまってはならないでしょう。例えば、中国や韓国では、反日教育が展開されていると言われていいます。そういった教育は、ナショナリズムを鼓舞しながら自国民たるアイデンティティを形成しようとするものですが、同時にそれぞれの国内に抱えている、例えば貧困、格差といった問題から国民一般大衆の関心をそらすものでもありましょう。一方、中国や韓国とは対照的に、台湾やモンゴル国は非常に親日的であると言われる。しかし、それも単純に親日的な教育が行われているということではなく、近隣諸国との国際的なパワーバランスのもとで、自国民のアイデンティティ形成のために政治的に教育が活用された結果と見なすことも可能です。

このような状況の中で、現実に生じている共通した諸問題について、その成立や維持、変質に教育がどう関わってきたのかを掘り下げ、そしてそれら諸問題の解決に向け、国家を越えてどう協力協働して教育と教育学を再構築していくのかを問うていく必要があります。非常に困難な課題ではありますが、我々教育に携わるすべてものにとって大変重要なしごとです。

今回のシンポジウムでは、中国と韓国からも研究者を招き、それぞれの他国への関心の源や実際のかかかわりを踏まえて、日本を含めて各国に共通した問題である貧困や格差、ナショナリズムの問題を念頭において報告いただき、東アジアをつなぐ教育の可能性を探ってみたいと考えています。

具体的な登壇者につきましては、決定次第、大会ウェブサイトおよびプログラムに掲載いたします。

### (2) 公開シンポジウム II

テーマ：3.11以後の世界に教育学は何を提起するのか？

シンポジウム II 「3.11以後の世界に教育学は何を提起するのか？」(仮) では、表題のとおり、未曾有の災害である“3.11”以後の教育学の課題について考えるとともに、“3.11”を巡る諸状況を私たちはどのように受けとめ、それを語る事が出来るのかという、教育と教育学を貫く問いについて議論していきたいと思ひます。

この度の震災は、大都市と地方という形で近代が内包してきた、地理的・経済的・政治的な分断と従属の図式を剥き出しにしました。それは大震災に続くかたちで生じた、原発を巡る問題圏のなかで浮き

彫りにされるとともに、私たちの生活そのものがこの近代の図式のなかにあり続けていることを突きつけています。そうした状況は同時に、科学・技術や生命あるいは学問そのもののあり方へと向けられた問いを喚起していると言えます。右肩上がりの「成長」がどこまでも搾取の構造の中にあることを認識したいま、まさにその「成長」を人間の育成を通して支え演出してきた教育（学）、「生」への問いを括弧に入れ続けてきた教育（学）は、どこからはじめていけるのでしょうか？

また、こうした社会構造と知への問いとともに、「声のレベル」においても、教育学が取り組んでいかなければならない問いがあるように思われます。すなわち、“3.11”という誰もがそれについて語る言葉を失ってしまった出来事とそこから生じた様々な経験をどのように受けとめ、それを子どもへとどのように語るのか、という問いです。

ある未曾有の経験について語ること、そしてその語りを聴くことの困難さは、その経験が甚大であればあるだけ大きいと言えますが、この困難さを超えていくことでしか開かれぬ地平があるはずです。そして何より、教育というものが何かを子ども達に「語る」営為であるとするなら、こうした今日の状況は教育（学）に突きつけられた課題であるとともに、教育（学）こそが引き受けなければならない問いであるに違いありません。そして、そのためにこそ、多様な経験を受けとめることの意味、そしてその覚悟がいま問われているように思われます。それは、震災を巡るさまざまな「隔たり」があることを受け容れながら、そしてそれによって生じるであろう（あるいは不可避的に生じる）ズレを引き受けながら、「語らいの場」につこうとする意志であり、覚悟であると言えます。“3.11”後の世界において／に向けて、私たちは何を聴き、語ることができるのでしょうか？

経験を語り継ぐことの必要性とその難しさという課題に、語り継ぐことの可能性を透かし見ながら、このシンポジウムを提案したいと思います。

具体的な登壇者につきましては、決定次第、大会ウェブサイトおよびプログラムに掲載いたします。

## 10. 昼食

夏季休業期間のため文系キャンパスの大学食堂は営業しておりません（金・土曜日は理系キャンパスの食堂は営業）。ただ、学期中も混雑するため学生や教職員の多くはお弁当（300円～500円）のワゴン販売を利用しています。大会期間中も構内にて販売を予定しておりますので、趣向で選べる九大生のソウルフードをぜひお楽しみください（数に限りがあります）。また近隣の飲食店を紹介した「九大グルメマップ」を受付で配布いたします。

## 11. 懇親会

福岡・博多といえば！全国的にも旨くて安い、そしてバリエーションに富んだ「食都」です。ラーメン、もつ鍋、水炊き、明太子……と枚挙に暇がありません。高くて旨いは当たり前、フツーの店でも美味しくなければ生き残れないのが福岡なのです。意外に知られていないのが魚の新鮮さ・美味しさです。長浜鮮魚市場は水揚げ全国第4位、暖流と寒流に挟まれた豊かな漁場のおかげで魚種は築地市場に次ぎます。……ご参加の皆様は大会期間中、そんな福岡の食をめいめいに堪能されると思いますが、本大会では、はるばる福岡にきていただいた皆様にぜひはずれなく福岡の食にかける心意気、その真価を堪能いただきたいと、「福岡の食は日本一！」と胸をはる福岡リーセントホテルに会場を設定させていただきました。スタッフ一同、ホテルにもご協力いただき、心からのおもてなしの準備を進めております。皆さまお誘いあわせの上、どうか奮ってご参加ください。ウェブサイトにて事前申込をいただき、かつ期日までに振込をされた場合、大変オトクな割引料金を設定いたしました。詳細は上記懇親会費の欄をご参照ください。

\*福岡リーセントホテル（箱崎キャンパスから徒歩10分程度）

<http://www.recent-hotel.com/>

## 12. 宿泊

交通機関および宿泊の手配は、会員各自でお願いいたします。

### 13. 託児サービス

博多駅近く、ANA クラウンプラザホテル福岡別館（チャペル館2F）の「都市型保育園 ポポラー」の一時保育の利用を予定しております。詳細については、実行小委員会にメールでお問い合わせください。人数に限りがございますので、お早めにお問い合わせください。

<http://www.rabi-popo.com/popolar/area/kyusyu/post-49.html>

### 14. 組織体制

九州地区大会準備委員会	委員長	新谷 恭明
	副委員長	元兼 正浩
大会実行委員会	委員長	八尾坂 修
	副委員長	野々村淑子

実行小委員会

【総務】野々村淑子 【渉外】元兼正浩 【会計】竹熊尚夫

【プログラム・分科会等】田上 哲、荒牧草平 【懇親会等】岡 幸江

【広報】田北雅裕 【シンポジウム】藤田雄飛、Edward Vickers、田上 哲、岡 幸江

### 15. 連絡先

〒812-8581

福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学大学院

人間環境学研究院 教育学部門

日本教育学会第73回大会準備委員会（実行小委員会）

メールアドレス：taikai@jera73.jp